

平成29年度 地域連携活動報告書

連携先名称	長野県小県郡青木村	担当教員	飯森文平
活動状況	継続中	関連教員	山田隆一・杉原たまえ（国際農業開発学科 農村開発協力研究室）
協定締結日	2016/7/19	活動資金	研究室予算・学科予算
活動内容	<p>【実習】研究室の実習班の一つに、青木村班を配置し、希望する学生が実習に参加する。教員も可能な限り引率するようにしている。実習は、基本的に金曜日～日曜日の2泊3日で行う。実習先は、野菜、果樹、花卉などの農家、狩猟組合、道の駅、新規就農者、福祉事業所など多岐にわたる。青木村役場の地域農業マネージャーの清水様が、訪問先の調整など全てご対応いただいている（別添1, 2）。 ①2017年4月7日（教員：杉原・飯森 学生：1名）年度初めの打ち合わせ ②6月2～4日（教員：杉原・飯森 学生：11名）ニンニク収穫・えごま植え付けほか ③7月14～16日（教員：飯森 学生：10名）ニンニク出荷調整ほか ④8月4～7日（教員：山田・飯森 学生：9名）実習・夏祭り参加 ⑤10月20～22日（教員：山田・杉原・飯森 学生：4名）えごま収穫・脱穀・乾燥ほか</p> <p>【セミナー】青木村において、年間連携活動報告会を、定例的に年度末に行っている。セミナー開催は広報で呼びかけ、連携活動成果を住民の皆様へ還元することを目的に実施している。研究室員は全員参加する。 2018年2月12～13日（教員：山田・杉原・飯森 学生：41名）</p> <p>【調査】道の駅利用調査 2017年9月 2018年2月 【卒論調査】4名複数回</p>		
活動成果	<p>1. 卒業論文（指導：飯森文平助教） ①安藤豪汰「中山間地域における生活文化」 ②小川菜「長野県青木村における健康づくりの変遷と実状」 ③城下哲太「中山間地における地域組織の構造と機能について ―青木村における区を事例として―」 ④高木翔太「有害鳥獣捕獲と猟友会の将来像について―長野県青木村を中心として―」</p> <p>2. 収穫祭文化学術展 中山間地域の諸問題について、青木村での実習や調査を通じ、研究室の研究課題として取りくみ、「中山間地域の課題と展望～長野県青木村からみるコミュニティの機能～」というテーマで、発表をした。</p> <p>3. 「青木村セミナー」の開催 地域連携活動の総括を、青木村において行った（別添3）。</p> <p>4. 新規移住者の創出 実習に熱心に参加した学生が、青木村に新規移住した（神奈川県出身の女子学生1名）。4年生に在学中に、青木村役場の採用試験を受け、卒業後直ちに青木村に移住した。現在青木村役場職員。</p> <p>5. 連携商品の販売 学生が生産・調整作業に関わったえごま油を、東京農大生協において販売（2300円/本 好評・2か月で完売）。搾油は、農大の地域連携先である長野県長和町の長和雑穀研究会（立岩先生主催）に、青木村がご協力を仰いで行っている（別添4）。</p>		
課題・改善点	<p>北村村長はじめ村役場の方々や住民の皆様のご支援により、大変充実した実習を行わせていただいている。訪問時には、毎回欠かさず村長による開校式が行われる。宿泊代と入浴料は、村の施設を無料で利用させていただいている。また、最寄り駅から村までと村内の移動も、村のご支援を受けている。訪問目的に合った訪問先などの選定も、周到にご準備いただき、大変恵まれた環境で活動を行わせていただいていることに、常々感謝している。</p> <p>連携活動を継続していく上での課題は、費用の確保と連携内容の深化である。費用については、研究室内の予算では賅えず、学科の協力も得ている。今後、外部資金などの申請を積極的に行わなければならないと考えている。また、連携内容については、一研究室ではカバーできない課題があるため、連携を深化させるうえで農大内での多様な連携とそれを統括するような仕組みづくりが学内に必要なのではないかと考えている。</p> <p>※別添5 2016年度活動概略</p>		

東京農業大学 青木村研修計画（6月班）

- 1 期日 平成 29年6月2日(金)～4日(月)
- 2 宿舎 青木村 かつろぎの湯隣 青木村交流ハウス
- 3 参加者 学生 11名(男8、女3)、教員1名

日 時	農家等場所	内 容	学生名	食 事	村対応者
6/2(金) 11 時着上田駅 11 時 45 分着 12 時 30 分～ 45 分 13 時～ 16 時 30 分 17:30～	上田駅迎え		全員		清 水 080-5108-5188
	(昼食)☎0268-49-0111 役場 2 階 会議室 1		全員	弁当 11 名	村長車 6 名(清水) ハネット 5 名(小林)
	【受入式】 農技連圃場 入奈良本	北村村長講話 ニンニク収穫支援 (堀上機械)、エゴマ 半自動定植機	村長、課長、奈良本係長、青木、小林、清水 全員		ハネット 5 名(小林) 軽トラ 1 名(清水) エクストレル 4 名(青木)
	交流ハウス	(夕食)	全員	弁当 11 名	
6/3(土)7:00 風呂清掃 8:30 出発 ～16:30 17:30～	交流ハウス	(朝食)	全員	弁当11名	
	A 班農委金 井成夫氏	ぶどう棚の撤去	男子 2 名	弁当 2 名 金井氏宅	金井氏送迎
	B 班 5名 堀内農園	鶏小屋整備、雑草 管理等	男女 5 名	弁当 5 名 堀内農園宅	堀内農園送迎
	C 班 4名 農技連圃場	ニンニク収穫支援 エゴマ定植	4 名	昼弁当4名 役場会議室	清水送迎ハネット 小林隊員軽トラ
	道の駅あおき	買い物			
	交流ハウス	(夕食)	全員	弁当11名	
6/4(日)7:00 9時～11 時 30 8 時 30 分～ 11 時 30 分 12 時～30 分 13 時～ 13 時 45 分～ 14 時 30 分 14 時 45 分～ 15 時 20 分 15:20 青木発 16:08 上田発	交流ハウス	(朝食)片づけ・清掃 風呂清掃	全員	弁当11名	
	A 班 5名フ ラワ-ファ-ム沓掛	花 卉 ハ ウ ス の 管 理 作 業	5 名		清水送迎ハネット 5 名 田中 09018676764
	B 班 6名 農技連圃場	ニンニク収穫支援 エゴマ定植	6 名		清水送迎ハネット 5 名 小林隊員軽トラ 1 名
	(昼食)役場 2 階会議室 1		全員	弁当11名	
	交流ハウス	清掃・荷物			
	【調査】子檀 嶺岳登山口	遊休荒廃地の解消 小林久夫氏			
	道の駅あおき	道の駅調査・買物			
	青木村出発	先発隊出発			
	上田駅発				ワゴン8名(清水) レンタカ-3名(飯森) 高速バス

東京農業大学青木村研修計画（11月卒論班）

- 1 期 日 平成29年11月23日（木）～26日（日）
 2 宿 舎 青木村交流ハウス（くつろぎの湯隣）
 3 参加者 学生4年2名（男1名、女1名。）

日 時	研修場所	内 容	村対応者
11/23	【小川さん】上田駅	15:40 着 → 千曲バス青木バスターミナル 16:42 着（清水出迎） 交流ハウスの鍵を渡す	公用車清水 080-5108-5188
17時30分	（宿舎）交流ハウス	（入浴等）	
11/24	【小川さん】	（宿舎）交流ハウス、風呂清掃	公用車清水
9時～約30分	役場1階 相談室	8時50分清水迎え→ 【卒論調査】⇔地域包括支援センター-宮沢センター-長	
12時～13時	役場会議室等	（昼食）	
13時～	宮原歯科医院 （役場隣） 医院長様宅	【卒論調査】清水、宮原医院長様宅へ案内 ⇔宮原歯科医院 宮原信之院長	
17時30分	（宿舎）交流ハウス	（入浴等）	
11/25	【小川さん】	（宿舎）交流ハウス、風呂清掃	清水
8:30～11:30	役場会議室1	（昼食）	
12時～13時	青木診療所 （役場隣）	【卒論調査】小川さん ⇔青木診療所 小河原院長	
14時30分～	【城下さん】上田駅着 → 上田に宿泊		
17時30分	（宿舎）交流ハウス	（入浴・夕食）	
11/26	（朝食）交流ハウス	片づけ	清水
9時～	【城下さん】千曲バス上田駅 7:59 発 → 青木バスターミナル 8:28 着 → 役場会議室へ（清水役場会議室で出迎）		
9時～	池田薬局（役場隣）	【卒論調査】小川さん ⇔池田薬局 池田純之助社長	
9時～	役場会議室1	【卒論調査】城下さん ⇔沓掛区 多田区長、松澤さん	
	役場会議室1	（昼食）	
青木村発	【城下さん、小川さん、】出発		

東京農業大学 信州・青木村セミナー一次第（案）

日時：平成30年2月13日（火） 午前9時

場所：青木村文化会館 2階講堂

1 開会

2 挨拶

9:00～9:15

村長

東京農大国際食料情報学部（山田隆一教授）

3 交流の経過（4年 作道太一）（時間は5分程度）

9:15～9:20

（司会：塩崎萌子（3年）、城祐太郎（3年））

4 調査・研究報告

（20分/名）

(1) 城下哲太「中山間地域における地縁組織の構造と機能について—青木村における区を事例として—」
9:20～9:40

(2) 高木翔太「有害鳥獣捕獲と猟友会の将来像について—長野県青木村を事例に—」
9:40～10:00

(3) 小川菜「長野県青木村における健康づくりの実状—若い世代と高齢者を中心に—」
10:00～10:20

(4) 安藤豪汰「農山村の生活文化～青木に生きる人々～」
10:20～10:40

【休憩】
10:40～10:50

(5) 四戸美希・渡慶次静奈
「中山間地域の課題と展望～長野県青木村から見るコミュニティの機能～」
10:50～11:10

(6) 発表者未定「道の駅アンケート結果と提案」（時間は5～10分程度？）
11:10～11:20

(7) 「エゴマ油 青木村産100%」の報告（清水）

（司会：塩崎萌子（3年）、城祐太郎（3年））

5 今後の交流について（意見交換）

11:20～11:50

6 閉会

11:50

【会場準備】

11:50～12:00

7 昼食パーティー

12:00～

(1) 開会

(2) 挨拶と乾杯

(3) 交流（東京農大と青木村との協定発展に向けた学生代表によるエール）

(4) 終了

13:00

会場片付け（13:00～13:15）

文化会館出発 13:20、道の駅あおき経由青木村発 14時

農大生協での連携商品の販売

えごま油 信州青木村×東京農業大学農村開発協力研究室

新発売

耕作放棄地の復活に向け
東京農業大学にご協力いただき
野生鳥獣被害が少ないエゴマ栽培に取組みました

えごま油

青木村産100%

140g

連携

信州 青木村
日本一住みたい村

東京農業大学
農村開発協力研究室

【おすすめのえごま油の食べ方】

エゴマに含まれるα-リノレン酸は熱に弱いので、生のままお使いいただくメニューがびっ तरीです。
少量をサラダのドレッシングや味噌汁にたらして、納豆やお浸し、豆腐や刺身に醤油と一緒にかけるなど、忙しい人でも手軽にお楽しみ頂けます。

名 称	食用えごま油
原材料名	エゴマ(信州・青木村産100%)
内 容 量	140g
賞味期限	平成30年12月18日
保存方法	冷蔵所にて保管、開栓後要冷蔵 早期に使い切るようにしましょう
製 造 者	長野県小県郡青木村田沢111 青木村(☎0268-49-0111)



2017年2月15日

東京農業大学国際農業開発学科
農業開発政策研究室

2016年度 地域包括連携協定活動報告書

1. 協定概要

連携地域：長野県小県郡青木村

連携協定締結日：2016年7月19日

協定目的：本協定の主たる活動内容は、下記の通り

- (1) 地域産業資源を活用した6次産業化と人材育成に関する事項
- (2) 環境保全・地域づくりに関する事項
- (3) 教育・研究・文化振興に関する事項
- (4) 就職支援に関する事項
- (5) 農林業振興に関する事項

2. 活動内容

◇第1回：2016年5月2日(月)

内 容：協定前の現地視察

参加者：教員3名 学生5名

◇第2回：2016年7月22日(金)～24日(日)

内 容：①全体視察

②農業実習（株よしとも・堀内農園・役場・入奈良本農技連圃場・岩下りんご園）

参加者：教員2名 学生11名

◇第3回：2016年8月6日(土)～8日(月)

内 容：①全体視察

②農業実習（株よしとも・堀内農園・入奈良本農技連圃場・岩下りんご園・ワウファーム沓掛・片田りんご園）

参加者：教員1名 学生13名

◇第4回：2016年10月21日(金)～23日(日)

内 容：①役場にてニンニク生産や直売所、加工施設等について調査

②農業実習（芽子にんにく加工施設・ニンニク生産農家〔小林組合長、塩澤副組合長〕・堀内農園・入奈良本圃場での）

参加者：教員3名 学生6名

◇第5回：2016年11月11日(金)～14日(日)

内 容：①調査、農業実習（森林組合・小林久夫さん・堀内農園・青木村猟友会・ワウファーム沓掛・道の駅直売所・増田りんご園）

参加者：教員3名 学生12名

◇第6回：2017年2月14日（火）-15日（水）

内 容：東京農業大学 信州・青木村セミナー

- ① 年間成果報告会
- ② 交流会
- ③ ヒアリング調査

参加者：教員4名 学生31名（2名欠席）

3.活動成果

（1）卒業論文 5本

- ①山崎直基「芽子ニンニクの生産と流通」（指導教授：岩本純明）
- ②高橋孝士朗「長野県青木村における天然食用資源とその利用」（指導教授：岩本純明）
- ③杉田寛奈「農村女性の農産加工の取り組みと課題～青木村農産加工施設運営を事例として～」
（指導教授：杉原たまえ）
- ④後藤未来「農家女性の他産業従事を可能とする条件～長野県青木村の農家を事例として～」
（指導教授：杉原たまえ）

（2）商品開発

「えごま油 青木村×東京農業大学農業開発政策研究室」

4.広報

- ・信州民報「東京農大と『包括連携協定』締結 あすから学生が村で農業体験行う」2016年7月21日
- ・信濃毎日新聞「農業を生かした地域おこしに学ぶ 青木村で東京農大生」2016年7月23日
- ・広報あおき「東京農大 in 青木村」「東京農大生が農家で研修」（実習訪問時）

5. 来年度の課題

課題1. 農業・農村活動の担い手

- （1）高齢者
- （2）女性
- （3）「障害」者

課題2. 地域（地域活性に関わる課題）

- （1）特産品（芽子にんにく、エゴマ、タチアカネ、伝統野菜など）
- （2）集落システム
- （3）Iターン、村内諸組織
- （4）集落支援員
- （5）加工施設、道の駅

課題3. 共有資源

- （1）共有林（松茸山利用管理、鳥獣捕獲など）
- （2）温泉
- （3）灌漑施設（ため池など）

2017年4月7日

東京農業大学国際農業開発学科
農村開発協力研究室

地域包括連携協定活動計画（2017年度）

0. 打ち合わせ

2017年4月7日 @青木村役場（村長・清水・岩本・杉原・飯森）

1. 訪問時期と課題

- ① 連休中：直売所アンケート
- ② 6月3日・4日：ニンニクの収穫・エゴマの定植
- ③ 8月5日：初夏祭り
- ④ 9月：リンゴ・稲刈り・杜仲・ナツハゼ（10月初旬）
- ⑤ 10月下旬：ニンニクの収穫・エゴマの収穫（脱粒・洗浄）（⑥11月：農産加工（干し柿・野沢菜・もんぺなど）
- ⑦ 2月7-8日：信州青木村セミナー（3月頭から議会、2月1週目予算）

2. 課題

- ① **エゴマ**：脱穀・乾燥・油絞りが大変な作業。
しかし、鹿の被害が全くないことは大きな利点。
手間がかからず、農家にとっても所得は魅力的。種は役場で確保してある。
機会を役場で揃えて、農家は収穫までというシステムを作れば、栽培する人は増えるのではないか。
葉は天ぷらになる。
エゴマは、海外の安いものもあり。先行成功事例の生産・加工過程を調べる。
- ② 今年の卒論課題：今日現在、青木村で卒論研究を考えている学生の課題は、温泉、女性活動、農作業着、鳥獣被害など。
- ③ 訪問先：昨年訪問した農家以外を意識的に訪問。
実習と調査の組み合わせというスタイルは維持する。
グループに張り付いて、活動を共にできるようにする。
- ④ 個人調査：学生が個人的に農家と連絡を取る。村に入る予定を、清水さんに連絡。トラブルがあったときなどは、とくに村への連絡をする。
- ⑤ そのほか：
 - 1) 重点道の駅開設に伴い、4月20日に現道の駅を閉じる。28日にグランドオープン。
 - 2) 重点道の駅開店祝いに、上田のお酒（亀齢）と南魚沼のお酒（青木酒造の鶴齢）をひと箱セットにして売りたい。上田のほうは、女性杜氏が農大卒。穂坂先生の伝をお願いしたが、南魚沼の方は分からず。青木君につないでもらう（青木酒造営業部長：阿部氏）。
 - 3) 開店に、メルカードの商品を販売。豊原先生に学生派遣について問い合わせる。
 - 4) 5月13日 村長さん造園大賞受賞

3. 収集資料

- ① 「農作業支援要請案スケジュール」
- ② 「長期振興計画」「むらづくり宣言概要版」「道の駅あおきパンフ」
- ③ 「青木村村民活動支援事業補助金 交付実績」（片田課長）
- ④ 「役場組織および職員配置図」
- ⑤ 「（11月新そば祭＝産業祭）出展参加者」← 村内の主要組織
注目組織：かたくり会、あい・友、青木村 NI きたい会、はばっくらファーマーズ・青木ヤギの会・いききたい会・やってみる会